

独立行政法人日本原子力研究開発機構の次期中期目標策定に係る  
原子力委員会の見解への対応について

平成22年2月25日  
文部科学省

原子力委員会より提示された「独立行政法人日本原子力研究開発機構の次期中期目標の策定について（見解）」（平成22年2月9日）の趣旨を踏まえ、次期中期目標の策定に当たっては、以下のとおり見直しを行っておりますので報告いたします。

<構成員の士気の維持・向上と定量的な目標の設定・評価>

- 前文において機構全体として目指すべき方向と機構への期待を明確化
- 可能なものについては数値目標を設定

<組織運営の強化と品質の維持・向上>

- マネジメントの強化を明確化
- 理事長のリーダーシップの下、重層的な PDCA サイクルを通じ、機構全体として相乗効果発揮を図ることを明確化

<イノベーション・エコシステムの中核的拠点としての取組>

- 中核的拠点に相応しく4大事業から基礎・基盤研究まで総合的に包含することを明確化
- プロジェクトと基礎・基盤研究の連携協力を明確化
- 技術の高度化と科学技術基盤の強化を図るとともに、産学官のネットワーク形成による連携協力推進を明確化
- 幅広い専門分野の研究者・技術者の有する経験等を基にして、研究インフラを活用した効率的な研究開発を推進することについて明確化
- 施設・設備の重点的かつ効率的な更新・整備について明確化

<大型研究施設の設置・運営のあり方>

- 施設・設備の供用と、特定先端大型研究施設の共用を促進し、利用者支援の充実等を図ることを明確化

<安全・原子力防護・核不拡散の推進>

- 安全、核物質防護及び核不拡散の諸活動に貢献することを明確化
- 安全、防災及び核不拡散に関する政策に貢献するための活動について明確化
- 安全確保及び核物質等の適切な管理の徹底について明確化

<高速増殖炉・核燃料サイクルシステム等の推進あり方（スパイラルアプローチ、リスク管理活動等）>

- プロジェクトマネジメントの強化、「もんじゅ」が FBR サイクルの実用化に果たす役割、国民への説明の必要性、移行期を念頭に置いた核燃料サイクルの研究開発の必要性等を明確化
- 研究開発の方針や計画等については、適宜、評価・改善を図ることを明確化
- 成果の産業利用を目指し、産業界との連携を効果的に行うことを明確化
- 研究開発の遅延防止のためのリスク管理強化について明確化
- 基礎・基盤研究とプロジェクト研究開発の連携による効果的な研究開発について明確化

<原子力施設の廃止措置及び放射性廃棄物の処理・処分の推進>

- バックエンド技術の開発について明確化
- 埋設処分事業について明確化
- 自らの原子力施設の廃止措置及び放射性廃棄物の処理処分の計画的、安全かつ合理的な実施について明確化
- 廃止措置の検討については、国内外における代替機能の確保、機能の他機関への移管、当該施設の利用者の意見等を考慮することを明確化

<外部機関・立地地域との連携>

- 産学官連携の強化、産業界における実用化への積極的な協力、国際協力の積極的な推進、立地地域の企業、大学等との連携充実等について明確化

<原子力新興国・国際機関に対する協力活動>

- アジア諸国や開発途上国との国際協力や IAEA、OECD/NEA 等の国際機関への協力を通じた国際貢献推進を明確化

<人材の育成・確保と知識・技能の伝承>

- 優秀な人材の確保・育成、成果や知識の若手への継承等の組織的・計画的実施について明確化

<国民への説明責任>

- 「もんじゅ」停止中の経費や研究成果等について国民にわかりやすい形で公表することを明確化
- 研究成果の発信により、国や実施主体の行う事業に関する国民理解促進に貢献することを明確化
- 広聴・広報活動の実施について明確化

<国内外情勢への柔軟な対応>

- 原子力委員会等の国の方針にしたがって、業務を実施することを明確化